

横浜市訪問看護師人材育成プログラム策定にかかる
『看護学生の訪問看護就労意向に関する調査』
調査結果報告

令和2年4月

横浜市医療局がん・疾病対策課

概要

調査対象: 横浜市内19か所の看護師養成施設に在籍する最終学年の看護学生1620名

回収数は933名(回収率57.59%)・有効回答は764件

調査期間: 令和元年10月～11月

調査内容

国内の看護学生の就労意向に関する調査に関する文献(清水, 2007; 長沼ら, 2015; 米澤ら, 2014; 戸塚ら, 2012; 檜原ら, 2014; 長谷川ら, 2015)をもとに、看護学生の基本情報(学校の種別、学年、性別、訪問看護師の知り合いの有無、訪問看護を受けたことのある同居者の有無、訪問看護に関する講義の受講の有無、訪問看護に関する実習の受講の有無)、進路について(現在決定しているあるいは考えている進路、進路に関する情報収集の方法、進路決定で重視したこと)、訪問看護師に関して(訪問看護師の仕事内容について、訪問看護師としての就職への関心、卒業後すぐ訪問看護師になれることを知っているか、訪問看護に対するイメージ、訪問看護師として就職する際に求める条件、訪問看護ステーションに就職する際に求める教育体制)、以上内容を含む質問紙を作成した。

対象者の属性

対象者の内、571人(75.05%)の学生が専門学校に在籍し、691人(90.56%)の学生が女性であった(表Ⅱ-1)。

表Ⅱ-1 対象者の属性

N = 764

		n	(%)
学校の種別	専門学校	572	(75.07)
	大学	190	(24.93)
性別	女性	691	(90.56)
	男性	72	(9.44)
訪問看護師の知り合いの有無	いる	112	(14.74)
	いない	648	(85.24)
訪問看護を受けている同居者の有無	いる	73	(9.66)
	いない	683	(90.34)

在宅看護学実習について

在宅看護学実習期間は、平均8.65±2.95日。実習施設では、訪問看護ステーションが734人（96.07%）、続いて地域ケアプラザ424人（55.50%）、通所介護事業所233人（30.5%）であった。在宅看護学実習の印象については、「関心が高まった」「まあまあ関心が高まった」で94.05%と、在宅看護に高い関心を寄せていた。

表 II-2 在宅看護学実習の概要

N = 764

	平均値 ± 標準偏差	(最小-最大)
在宅看護実習期間 (日)	8.65 ± 2.95	(2 - 30)
	n	(%)
在宅看護学実習施設 (複数回答)		
訪問看護ステーション	734	(96.07)
地域ケアプラザ	424	(55.50)
通所介護事業所	233	(30.50)
通所リハビリステーション	181	(23.69)
特別養護老人ホーム	127	(16.62)
介護老人福祉施設	115	(15.05)
グループホーム	45	(5.89)
介護療養型医療施設	14	(1.83)
小規模多機能型居宅介護事業所	16	(2.09)
看護小規模多機能型居宅介護事業所	7	(0.92)
軽費老人ホーム	2	(0.26)
その他	64	(8.38)

その他の内容	
透析センター	26
健診センター	12
病院の地域連携部門	6
病院の訪問看護部門	5
特別支援学校	4
サービス付き高齢者住宅	4
病院外来	3
訪問介護ステーション	2
福祉機器センター	2
介護老人保健施設	1
訪問診療の内科クリニック	1
在宅看護学実習の印象 (n = 706)	
関心が高まった	297 (42.07)
まあまあ関心が高まった	367 (51.98)
関心がもてなかった	42 (5.95)

卒後の就職意向ならびに進学・就職活動について①

卒後の就業意向は、医療機関の看護師を希望または決定している学生が最も多く738人(96.60%)。

表 II-3 卒後の就職意向 N = 764

		n	(%)
卒業後の進路希望先 (複数回答)	看護師 (医療機関等)	738	(96.60)
	看護師 (訪問看護ステーション)	19	(2.49)
	保健師 (自治体、産業等)	13	(1.70)
	助産師	9	(1.18)
	進学	27	(3.53)
	その他	7	(1.18)
	その他の内容	未定	2
養護教諭		1	
進路・就職活動状況 (n=751)	試験を受けて合格をもらった	652	(86.82)
	試験を受けて結果を待っている	14	(1.86)
	これから試験を受ける	85	(11.32)

卒後の就職意向ならびに進学・就職活動について②

進路・就職活動状況は、10月～11月の時点で652人(86.82%)の学生が試験を受け合格を得ている状況。進学先は助産学校を希望する学生が19人(70.37%)と最も高かった。

表 II -4 進学選択者の進路先 N = 27

		n	(%)
進学先	助産師学校	19	(70.37)
	大学院 (看護)	4	(14.81)
	保健師学校	1	(3.70)
	大学院 (看護系以外)	1	(3.70)
	その他	2	(7.41)
その他の内容	大学進学 (看護)	1	
	大学院 (助産学) 専攻科	1	

卒後の就職意向ならびに進学・就職活動について③

卒後の進路の活動・決定時期は、専門学校生、大学生ともに最終学年の前学年の夏季に進路・就職先を決めていた。活動の時期では、最終学年の前年度と回答した学生が304人(42.23%)と最も多く、進学・就職の決定時期・活動時期が早くなっていることがわかった。

表 II -5 卒後の進路の活動・決定時期

N = 764

		平均月数 ± 標準偏	年次換算
進路・就職先を決める時期	専門学校生	17.96 ± 10.07	約2年生8月
	大学生	29.73 ± 12.17	約3年生8月
n (%)			
活動の時期まだ決めていない	17 (2.36)		
学校に入る前	108 (14.72)	時期の詳細	n (%)
最終学年	293 (40.69)	2019年4月～7月の間	293 (40.69)
最終学年前年度	304 (42.23)	2019年1月～3月の間	85 (11.81)
		2018年10月～12月の間	49 (6.81)
		2018年8月～9月の間 (夏季休暇)	81 (11.25)
		2018年4月～7月の間	89 (12.36)

卒後の就職意向ならびに進学・就職活動について④

進路を考える情報手段として最も多く回答したのが説明会521人(68.19%)、続いてインターンシップ462人(60.47%)、就職先のホームページ304人(39.79%)、就職先のパンフレット304人(39.79%)であった。上位ではなかったが就職サイト情報と回答した学生が118人(15.45%)、その他の内容としてインターネットと回答した学生も2人おり、情報収集手段としてITを活用していることがわかった。重要視した情報は、雰囲気135人(25.96%)と多く、次いで卒業教育107人(20.58%)、立地61人(11.73%)であった。

表 II-6 進路活動に関する情報① N = 764

		n	(%)
進路を考える情報手段 (複数回答)	説明会	521	(68.19)
	インターンシップ	462	(60.47)
	就職先のホームページ	304	(39.79)
	就職先のパンフレット	304	(39.79)
	先輩からの話	145	(18.98)
	看護教員の話	137	(17.93)
	就職サイト情報	118	(15.45)
	友人からの話	111	(14.53)
	家族からの話	75	(9.82)
	看護就職情報誌	43	(5.63)
	その他	64	(8.38)
その他の内容	実習先	25	
	アルバイト先病院	8	
	系列病院	8	
	奨学金	6	
	高校の先生	4	
	学校での就職説明会	3	
	地元の病院	3	
	合同説明会	2	
	インターネット	2	
	知人紹介	2	
	病院推薦	1	
	実習で聞いてみた	1	
	決定していた	1	
元から知っていた	1		
外部講師からの話	1		
高校生看護体験	1		

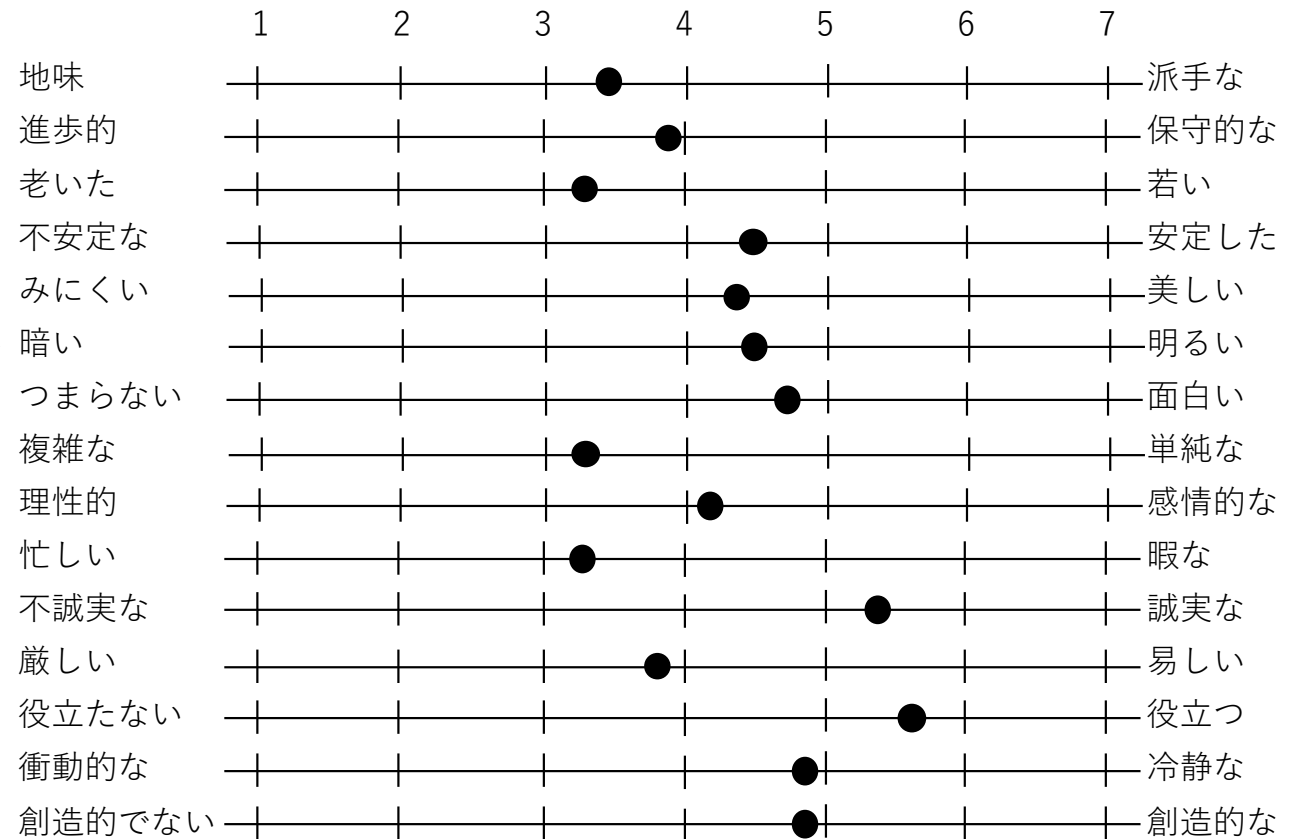
表 II-6 進路活動に関する情報②

		n	(%)
卒後進路を考える上で 重要視したこと (n=520)	雰囲気	135	(25.96)
	卒業教育	107	(20.58)
	立地	61	(11.73)
	奨学金の有無	45	(8.65)
	実習先	32	(6.15)
	施設・設備	31	(5.96)
	給料や授業料	22	(4.23)
	評判	20	(3.85)
	理念	19	(3.65)
	勤務体制	15	(2.88)
	教員からの助言	8	(1.54)
	試験内容	4	(0.75)
	知り合いがいる	4	(0.75)
	休暇	3	(0.58)
知人の話	2	(0.38)	
その他	12	(2.31)	
その他の内容	診療科	2	
	病院の専門性	2	
	家からの距離	2	
	好きな領域	1	
	病院推薦	1	
	1年目の教育体制	1	
やりがい	1		
雰囲気	1		

訪問看護へのイメージ

左に傾いた形容詞は「老いた」「複雑な」「忙しい」であり、右に傾いた形容詞は「誠実な」「役立つ」であった。訪問看護を利用している多くの療養者が高齢者であり、高齢に伴い疾患が多重・多様化し、看護援助が複雑化していること、訪問看護師が忙しいスケジュールをこなしていることを捉えていると考える。一方で、訪問看護師と療養者・家族への対応や、個別性の高い看護実践を実習で間近にみることによって、誠実であり、看護師として役立つとイメージしているのではないかと考える

表 II-7 訪問看護に対するイメージ



訪問看護師就業への関心①

訪問看護の就業への関心として「ある」が193人(25.36%)、「ややある」が249人(32.72%)と、合わせて半数以上の学生が訪問看護への就労に関心を寄せていた。就職の希望としては「いつかなりたい」と回答した学生が365人(47.90%)で、最も多く回答していた。6割以上の学生が、卒後すぐ訪問看護師になれることについて「知っている」と回答しており、卒後すぐになれることを知っているが、ある程度医療機関で経験を積んでから訪問看護へのキャリアを考えている可能性がある。医療機関の看護管理者は、そういった学生が医療機関に就業している間、訪問看護師への就労意欲を低下しないように関わる必要があると考える

表 II -8 訪問看護師就業への関心

N = 764

		n	(%)
訪問看護の就職への関心 (n=761)	ある	193	(25.36)
	ややある	249	(32.72)
	あまりない	206	(27.07)
	ない	113	(14.85)
卒後すぐ訪問看護師になれること (n=758)	知っている	516	(68.07)
	知らなかった	242	(31.93)
訪問看護師就職希望 (n=762)	卒後すぐになりたい	5	(0.66)
	いつかなりたい	365	(47.90)
	なりたくない	108	(14.17)
	わからない	284	(37.27)
いつかなりたい人のいつはどれか (複数回答)	病院等で1~3年経験後	36	(9.86)
	病院等で4~10年経験後	131	(35.89)
	病院等で10年以上経験してから	91	(24.93)
	資格取得後(専門・認定看護師)	27	(7.40)
	大学や大学院に進学してから	2	(0.55)
	ライフイベントを経た後(結婚・出産)	94	(25.75)
	特になく機会があれば	80	(21.92)
	その他	1	(0.27)

訪問看護師就業への関心②

訪問看護ステーションへ就職する際に求める条件としては、職場の雰囲気（510人（66.75%）、給料が480人（62.83%）、勤務体制（夜勤がない）が373人（48.82%）の順であった。訪問看護ステーションに就職する際に求める教育体制では、多くの医療機関が実施している「プリセプター制度」と回答した学生が348人（44.55%）と多く、次いで「身につける能力の指標をもとにした教育プログラム」が325人（42.54%）、「医療・福祉・介護に関する制度の研修」が323人（42.28%）であった。訪問看護ステーションへ就業した後も、少なからず訪問看護実践能力指標をもとにした教育を求めており、本事業への意義にもつながることが考えられる。

表 II-9 訪問看護ステーションに求めること（複数回答）

N = 764

		n	(%)
就職する際求めること	職場の雰囲気	510	(66.75)
	給料	480	(62.83)
	勤務体制（夜勤がない）	373	(48.82)
	立地	258	(33.77)
	教育	215	(28.14)
	評判	202	(26.44)
	休暇	193	(25.26)
	特徴（看取りをしている、小児専門）	135	(17.67)
	職員数	109	(14.27)
	理念	64	(8.38)
	説明会・インターンシップ	38	(4.97)
	実習先	12	(1.57)
	知人がいる	7	(0.92)
	その他	6	(0.79)
訪問看護ステーション 就職に求める教育体制	プリセプター制度	348	(44.55)
	身につける能力の指標をもとにした教育プログラム	325	(42.54)
	医療・福祉・介護等に関する制度の研修	323	(42.28)
	シュミレーションによる看護技術研修	321	(42.01)
	オリエンテーション	168	(21.99)
	他の訪問看護ステーションの新卒・新任看護師との交流会	121	(15.84)
	病院の新卒看護師との合同研修	97	(12.70)
	eラーニング	63	(8.25)
	DVD教育	34	(4.45)
	その他	7	(0.92)